

宮城県古川高等学校 学校独自検査問題（作文）

次の文章は、『星の王子さま』の一節である。ある日、王子さまは星々をめぐる旅に出ます。王子さまは七つ目の星地球でキツネに出会います。本文は王子さまがキツネに最初に出会う場面です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

そのとき、キツネが現れた。

「こんにちは」とキツネは言った。

「こんにちは」と王子さまは言った。「きみは誰？」

「おれ、キツネ」

「ぼくと一緒に遊んで」と王子さまは言った。「今、すごく悲しいんだ」

「おれはきみとは遊べないよ。まだ仲よしじゃないから」

「そうか、ごめん」と王子さまは言った。

それからしばらくして、王子さまは聞いた――

「仲よしって何？」

「《 》ってことさ。10万匹のキツネの中におれがいても、きみは気づかない。でも仲よしになったら、きみはひと目でおれを見分ける。きみにとっておれはこの地球の上でたった一匹のキツネになる」

（『絵本 星の王子さま』サンテグジュペリ、池澤 夏樹訳 集英社より）

問一 文中の空欄《 》にあてはまる言葉としてどのようなものが考えられますか。

問二 あなたは、人との関わりを通してこれまで経験したことから、どんなことを学び今後どう生かしていくか、四〇〇字以上六〇〇字以内で述べなさい。ただし、作文は二段落構成とし、一段落目にはこれまでの経験から学んだことを述べ、二段落目にはそれをふまえ高校生活にどのようなように生かしていくかを述べなさい。

（検査の観点）

- ①自己理解      ②理解力      ③思考力      ④表現力

（出題の意図）

・『絵本 星の王子さま』（サンテグジュペリ著，池澤 夏樹 訳 集英社）の一部を読んで，空欄に入る適語を記入させることで，文章を理解する力をみる。

・自分にとって特別の存在となった，恩師や先輩，同級生などとの出会いや関わりを通して成長できた自身の経験を振り返り，その体験を相手に伝えるように具体的に表現する力をみる。

・自らの経験に基づき学んだことを，高校生活にどのように生かしていくのか，決められた字数で自分の考えをまとめる力をみる。

